

カイゼンの普及と理数科教育の充実

エチオピアは、アフリカ連合(AU)や国連アフリカ経済委員会(UNECA)の本部が置かれるなどアフリカ政治・外交の中心国の1つで、「アフリカの角」の和平でも重要な役割が期待されています。

近年は高い経済成長を遂げていますが製造業が伸び悩んでおり、JICAは、民間セクターにおける品質・生産性向上や産業人材育成につながる理数科教育の向上などを支援しています。

品質・生産性向上(カイゼン)普及・能力開発プロジェクト

チュニジアにおけるJICAのカイゼンプロジェクトに注目したメレス前首相の主導で、エチオピア政府は、2009年に工業大臣直轄のカイゼン機構(Kaizen Unit)を設置して日本へ協力を求めました。

JICAは、カイゼン機構職員的能力向上とカイゼン手法の技術移転、マニュアルの作成、全国普及のための計画作成とともに、パイロットプロジェクト企業30社を設定して技術協力を行いました。カイゼン導

入の結果、パイロットプロジェクト企業は、コスト、売上高、労働生産性、不良率の低下など大きな成果を達成しました。

この実績のもと、2011年11月からカイゼンを全国に普及する体制の確立を目指して、カイゼン機構(Ethiopian Kaizen Institute)の組織・体制の整備、カイゼン機構コンサルタントの能力向上などを目指し、零細企業を含めて265社へのカイゼントレーニング実施を予定しています。

理数科教育改善プロジェクト

エチオピアの初等教育の就学率は70%を超えるまでに改善されましたが、修了率は58%にとどまり、学習到達度も低い水準にあります。JICAは、教員能力開発や教材支援などを行っています。

特に、工業化を目指すエチオピアでは理数科教育に重点を置いており、JICAは、1998年以来、ケニアなどアフリカ

各国で協力してきた理数科教育強化計画プロジェクトの実績をもとに、2011年度からエチオピアでも理数科教育改善プロジェクトを実施しています。

プロジェクトでは、モデル地区の初等科7-8学年(日本の中学校に相当)の理数科教員に対する、長期専門家(研修運営管理、理数科教育)および短期専門家の派遣や教育関係機関担当者のインドネシアや日本での研修などを通じて、生徒中心型の授業のレベルアップに向けた支援を行っています。



カイゼントレーニングの様子 【撮影：今村健志朗】



生徒中心型の授業風景